

平成19年 7月10日

ヘルパーステーションだいたう ケアレポート No 11

ヘルパーステーションだいたうのケアレポートNo 11をお届けします。

今回は褥瘡について考えてみました。

ヘルパーステーションだいたうの利用者213人(6月31日現在)のうち、褥瘡発生リスクの高い(褥瘡がある、あるいはそのおそれがある)利用者は以下の通りです。

障害制度	5人
要介護1	1人
要介護2	2人
要介護3	4人
要介護4	10人
要介護5	13人

このうち、

現在、実際に褥瘡がある	6人
現在は無いが、過去にあったり、発生リスクが高い	11人
発生リスクは低いですが、状況から可能性があり経過観察中	18人

です。

発生原因のトップの機序としては、寝返りがしにくい、できないなどにより長時間、寝具とやせて骨張った部分の間の組織に体圧が集中している事です。

その他の原因、あるいは発生後に悪化させる要因としては、

- * ADLが低下して寝返りなど体動がしにくい、あるいはその介助が少ない。
- * やせて骨張っている。
- * 寝具や円座などの予防具が適切でない。
- * 常に不潔で感染の原因になりやすい。
- * 湿気が多い(おしめ交換が不適切等)。

が考えられます。

ヘルパーステーションだいたいの利用者の方のうち、介護度の低い方で先の表にカウントされている方は、座位の時間が長く座面クッションを利用されているか、末期がんなどで急激に状態が悪化された方などです。一般的には介護度が高くADLが低い程リスクが高くなっています。

褥瘡対策は褥瘡防止用防具のレンタルによる体圧分散が中心です。

その方のADL、病状の進行の具合、身体的状況などによって褥瘡予防具の選定を行います。機器の選定は、ヘルパーステーション側から意見を申し出ることもありますが、主治医、訪問看護師、ケアマネジャーなどを中心に行われます。ポイントとしては、

* その用具の予防能力

エアーマット、褥瘡予防マットレスなど多くの種類があります
また、予防具の上に布団を敷くと予防効果が減じます

* ベッド上のADLの変化

利用者の状態によっては、ベッドからの立ち上がりがしにくくなるなどリスクもあるため、機器の選定には留意が必要

* 部分予防具（円座、クッション、パット）の選定

使用方法を間違えると褥瘡を悪化させることがあるので注意が必要

その他の対応としては、褥瘡を発生させないために、

* 長時間の体圧集中を避ける意味で、頻回の体位交換

* 栄養の改善

などが行われます。

また、褥瘡が発生したら改善のためには、上記に加えて医療処置が必要です。治療は褥瘡の状態（ステージ）によって違ってきますし、治療方法もいくつかありますので医療機関の治療方針を確認しましょう。

まとめ

褥瘡の発生はADLの低下に伴い危険性（リスク）が増しますが、発生後はさらにADLの低下を招きますので、最大限の努力によって避けたいものです。

褥瘡は予防が大切で、リスクの増大によって対応したり観察を強めたりします。

予防・治療には様々な方法がありますので、科学的根拠に基づいて適切な方法を検討します。

ショートステイなどの介護の環境が変わるときには、予防も含めて特に連携が求められます。

近年、褥瘡予防具の進化や治療法の発展によって、在宅での褥瘡は大幅に改善されてきましたが、在宅の重度化も予想されるのでさらに対応していきます。